

ブラジルの金利引き上げについて

2013年8月30日

ブラジル中央銀行は8月28日（現地時間）の金融政策委員会において全員一致で政策金利の0.5%の引き上げを決めました。これで同国の政策金利（Selic）は9.0%となりました。今回の利上げについては多くの市場関係者が予想していたことから、金融、為替市場での影響はみられませんでした。

《政策金利引き上げの背景》

実施の背景には①インフレ抑制、②通貨価値の安定、の2点が考えられます。

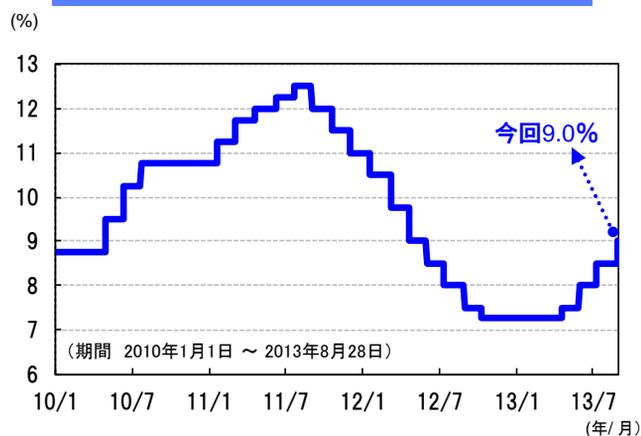
- ① ブラジルでは、自国通貨安による輸入インフレや拡張的な財政政策により、インフレ率が恒常的に高い水準にとどまっています。中央銀行が指標とするインフレ率（IPCA前年比）は、7月が6.27%と前月の6.7%から低下し、同国のインフレターゲット（4.5%±2%の誘導目標レンジ）の範囲内に収束しましたが、依然高い水準にあります。また、同国では、経常赤字を直接投資や証券投資資金の流入でファイナンスしてきましたが、最近では証券投資資金の流入が減少しているため、金利を高くすることで通貨の安定を図り、資金の流入を促そうとの意図もあると思われます。
- ② ブラジル政府・通貨当局は8月22日（同）に自国為替レートを維持するため、スワップ市場で合計600億ドルとなる大規模な市場介入策を発表しました。ブラジルレアルは5月以降、米国QE3の縮小開始観測が広がり始め、ドルなどの主要通貨に対して下落基調となっています。特に8月中旬以降、9月開始観測が強まったことで一段と下げ足を速めましたが、今回の安定化策発表後は反発に転じています。

《今後の見通し》

景気については、ブラジルの潜在成長率は+3.5%程度とされています。2011年には+2.7%、2012年は+0.9%（以上IMF）と低成長を続けています。2013年も+2.2%（中央銀行が委託する民間エコノミスト8月23日予測）と潜在成長率を下回っています。外部環境をみると鈍化していた中国の経済指標に成長率の下げ止まりもしくは改善の兆しがみられ、低迷が続いた欧州でも景気底入れの兆候があるものの、中国、欧州ともに急回復は望めず、ブラジルの景気も最悪期こそ脱したとみられますが、回復のペースは緩やかなものにとどまると考えられます。

為替レートについては、既に米国QE3の縮小を織り込んで相当の調整が進んだとみており、また通貨当局が市場介入を続けていることもあって、今後の下落余地は限定的と予想されます。

《ブラジルの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《ブラジルレアルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。